

人が集まる交流のまちづくりについて

- ◎鳥取砂丘再生 ……P2～3
- ◎まちなか観光の推進 ……P4～5
- ◎鳥取城跡の復元・整備 ……P6～11
- ◎鳥取駅周辺再生 ……P12～14
- ◎舞台芸術を核とした地域活性化施策 ……P15～19

【鳥取砂丘再生】 ①鳥取砂丘西側リゾートホテルの開業について

鳥取砂丘西側に誘致を進めているリゾートホテルについて、昨年10月6日に株式会社dhp都市開発とマリオット・インターナショナルとの間で本契約が締結され、最高級ホテルブランド「ラグジュアリーコレクション」を誘致し、開業を目指すことが決定されました。

大阪・関西万博等の建設需要の影響から、施工体制の構築に時間を要していますが、ホテル事業者と連携し、早期の着工をめざしてまいります。

1. 事業の概要について ※イメージパースは現段階のもので、今後、外観等が変更になる場合があります。



建築場所：鳥取市浜坂1390番219、221他
敷地面積：約18,264㎡
建物階数：4階建2棟（1階部分半地下構造）

施設概要（予定）

施設構成：オールデイダイニング、スペシャルティレストラン、ロビーラウンジ、バー、プール、大浴場、スパ他

客室数：100～110室

※全室から鳥取砂丘と日本海が眺望

総事業：150億円前後

客室単価：1室1泊6万円～

雇用人数：最大180人程度

■マリオット・インターナショナル

138の国と地域に31ブランド、合わせて8,600軒以上の宿泊施設を擁するホスピタリティ企業。世界に1億8,200万人の会員を擁し業界最大。（本社：米国メリーランド州）

■ラグジュアリーコレクション

同社の最高級ブランドの1つで、世界的に名高いホテルやリゾートばかりを集めたコレクション。国内では東京、京都、奈良、沖縄で展開中。

2. パートナーシップ協定について

本事業は、鳥取砂丘及び因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏域の観光振興に広く貢献できる事業と認められることから、本市と事業者（合同会社鳥取砂丘リゾート開発：株式会社dhp都市開発が本事業のために設立した特定目的会社）双方で圏域の観光振興に取り組むことを目的とする、パートナーシップ協定を新たに締結しました。

これは、プロポーザル提案の4つ星級ホテルが5つ星級へとアップグレードされ、山陰初の外資系ラグジュアリーホテルの誘致が実現する一方で、建設資材等の高騰による事業費への影響が大きいことから、本市も整備費の一部支援を行うこととし、詳細は事業者と協議し、今後、決定するものです。

3. 期待される効果について

ホテルの宿泊者数は年間約6万人が見込まれ、うち約3割がインバウンドと想定されています。外国人観光客は国内旅行者より多くの消費活動を行い、比較的長期間滞在し、地域特有の自然環境や食文化、伝統文化等を体験することを好む傾向があるとともに、最大180人程度の雇用が予定されるなど、高い経済波及効果をもたらすことが期待されます。

4. 今後の取組について

コロナ禍を経て観光需要は回復傾向にあり、2025年の大阪・関西万博の開催を機にインバウンド需要はさらに高まることが期待されます。

本市は、鳥取砂丘の観光振興、活性化及び保全に係る連携協約を鳥取県と締結し、西側エリアにおける滞在環境の上質化などに連携して取り組んでおり、今後も鳥取砂丘及びその周辺の景観改善や交通環境の整備、インバウンド向けの情報発信、受入態勢の充実など図っていく考えです。

【鳥取砂丘再生】

②「ヤマタ鳥取砂丘ステーション」のオープンについて

県市が鳥取砂丘西側に所有している旧サイクリングターミナル、柳茶屋キャンプ場及びこどもの国キャンプ場の3施設について、公募型プロポーザルで選考した「ヤマタ鳥取砂丘ステーション」が下記のとおりオープンしました。

1. 開業日

令和6年4月27日（土） ※令和6年4月19日（金）完成記念式典

2. 施設の概要

施設名：ヤマタ鳥取砂丘ステーション

施設運営者：株式会社ヤマタ鳥取砂丘ステーション（鳥取市千代水2丁目130番地）

(1) 鳥取砂丘ゲストハウス GUEST HOUSE 「砂縁(さえん)」※旧サイクリングターミナル

構造等：敷地面積約7,715㎡、鉄筋コンクリート造2階建、延床面9203㎡

主要設備：客室(15部屋：定員80人)、浴場、シャワー、研修室、食堂、売店、Wi-Fi、総合受付（観光案内）、自転車・キャンプ用品のレンタルなど

宿泊料金：一般1人2,750円（税込）※1室4名素泊利用

予約：楽天 Vacation STAY または電話受付



(2) 鳥取砂丘フリーサイトキャンプ CAMP VILLAGE 「砂育(さいく)」※旧柳茶屋キャンプ場

構造等：敷地面積約32,410㎡（利用面積約9,790㎡）

※大幅な改変は行わず、従来の利用者も使いやすいリーズナブルなキャンプ場。

主要設備：フリーサイトキャンプ約50張程度（約200人収容）、トイレ、炊事棟、バーベキュー棟など

宿泊料金：1サイト2,200円（税込）※1サイト4名利用（別途、要ゴミ処分費）

予約：楽天トラベルキャンプ



(3) 鳥取砂丘グランピング GLAMP DOME 「砂優(さゆう)」※旧こどもの国キャンプ場

構造等：敷地面積約29,328㎡ ドームテント(直径7m×6棟)、ウッドデッキ(6棟分)、木造平屋建ガゼボ(6棟分)

主要設備：ドームテント(1棟最大6名、計36名収容)、トイレ、シャワー、BBQ設備、冷蔵庫、エアコン、Wi-Fiなど

宿泊料金：1室1人12,700円～25,200円（税込）※1棟2～6名素泊利用

予約：リゾートグランピングドットコム



【まちなか観光の推進】 ③「まちなか観光推進事業」の取組について

復元整備が進む史跡鳥取城跡周辺の観光振興を図るため、城跡のライトアップや賑わいマルシェの開催のほか、三階櫓 AR コンテンツの充実、さらには、昨年の実証事業に引き続き、若桜街道商店街での灯りの演出と集客イベントを実施し、賑わい創出と滞在型観光の推進を図ります。

1. 各事業内容

(1) 鳥取城跡等のライトアップ

まちなかの夜間コンテンツとして、期間中毎日、城跡の石垣や袋川沿いの植栽のライトアップを実施し、観光スポットとしての魅力向上、滞在型観光の推進を図ります。

◆実施期間：令和6年3月25日（月）～12月1日（日）

◆場 所：鳥取城跡内の石垣（山上ノ丸除く）、袋川沿い植栽

◆監 修：(株)LEM空間工房 代表取締役 長町志穂 氏

(2) 鳥取城跡ときめきマルシェの開催（主体：鳥取市観光コンベンション協会）

鳥取城跡で定期的な賑わいイベントを開催し、賑わい創出と誘客促進を図ります。

◆名 称：鳥取城跡ときめきマルシェ

◆開 催 日：4/27、5/4、25、6/22、7/27、8/24、9/28、10/19
いずれも15：00～21：00

◆場 所：久松公園内



(3) 商店街エリア魅力創出事業の実施

鳥取駅と鳥取城跡をつなぐ若桜街道を舞台に、シャッターへの影絵投影や商店街組合のロゴマークが入った提灯の設置など灯りの演出を行い、魅力創出を図ります。

◆実施期間：令和6年8月1日（木）～12月1日（日）

◆場 所：若桜街道商店街

◆内 容：店舗シャッター等への麒麟獅子やしゃんしゃん傘などをモチーフにした影絵の投影、提灯の設置

(4) 若桜街道ぶらりさんぽ ～出張！鳥取まちなかビアフェスタ～

商店街エリア魅力創出事業に合わせて、商店街内の既存店舗が連携し、空き店舗を活用した飲食を中心とするイベントを実施し、賑わい創出と誘客促進を図ります。

◆実施日時：令和6年9月28日（土）11：00～21：00

◆主 催：若桜街道活性化協議会（商店街任意団体）

(5) 「鳥取城二ノ丸三階櫓AR」コンテンツの充実

昨年9月から運用開始した鳥取城の二ノ丸三階櫓をAR技術で再現したコンテンツに「音声案内機能」や「眺望ガイド機能」を加え充実させることで、来訪客の利便性を高めます。

◆公開開始：9月28日（土）の「鳥取三十二万石お城まつり」で公開

◆内 容：既存ARコンテンツへ音声案内機能及び眺望ガイド機能の追加

(6) 桜寛苑（旧金田市長邸）土蔵での観光案内拠点実証事業の実施

鳥取城跡周辺に立地する歴史的建造物である桜寛苑の土蔵を活用し、観光案内や物販等の実証事業を行い、城跡の観光拠点化を進めます。

◆実証期間：令和6年7月19日（金）～11月25日（日）

◆委 託 先：鳥取市観光コンベンション協会



【鳥取砂丘再生・まちなか観光の推進】

④「地域一体となった観光地・観光産業の高付加価値化事業」について

ポストコロナに向けた観光地再生のための地域計画を策定し、国がその取組を支援する「地域一体となった観光地・観光産業の高付加価値化事業」の採択を受け、現在、中心市街地の宿泊施設の改修や鳥取砂丘の廃屋の撤去、鳥取城跡周辺の観光施設改修と観光案内等を行う実証事業に取り組んでいます。

1. 地域計画の概要

- ①全体概要：鳥取砂丘の商店街景観を阻害する廃屋の撤去と鳥取温泉エリアの美観形成や「砂丘のまち」を印象づける統一的な演出、近隣商店街等と連携した周遊コンテンツづくりを事業者全体で推進するとともに、ファミリー層や40代女性、インバウンド需要の獲得のための客室改装等を実施し、宿泊施設の高付加価値化を図る。

ビジョン	季節いろいろ、鳥取砂丘でアップデート！味わい、癒され、遊び尽くしの鳥取旅時間
コンセプト	<p>◆街並み整備や宿泊施設の高付加価値化でもう一泊したくなる宿を増やし魅力を向上 砂丘商店街のまちなみ景観の魅力向上と砂丘のまちを印象付ける鳥取温泉エリアの一体的演出や夜間景観形成、訪日外国人を意識した各種洋式化や内装等の上質化で宿泊施設の高付加価値化を進め、泊まりたくなる、もう一泊したくなる宿を増やし魅力の向上を図る。</p> <p>◆周遊ルートや情報発信の充実による滞在型観光への転換 多彩なアクティビティ体験が叶う日本最大の鳥取砂丘を中心に、戦国最強の鳥取城跡、日本最古の民藝館通りなど、早朝、夜間を含むまちなか周遊コンテンツの充実、四季のグルメを取りそろえた周遊ルートや情報発信により滞在型観光への転換を図る。</p> <p>◆観光DXの導入による確実な再来機会の獲得と観光消費の拡大 観光DXの導入によるリピーターやファンづくり、ターゲット層へのダイレクトな販売促進、鳥取らしさを味わえるまちなか飲食店街の回遊、夜間周遊を促すキャンペーンの実施やアクティビティへの誘導など、確実な再来機会の獲得と観光消費の拡大を図る。</p>
ターゲット	関西在住40代女性、ファミリー層等の日帰り旅行者や香港・韓国・台湾の訪日外国人旅行者

- ②事業年度：令和5年度～令和6年度
 ③事業費・補助見込額：10.1億円・4.8億円
 ④申請主体：鳥取市

2. 個別事業計画

対象事業	No.	事業者	内容
宿泊施設の高付加価値化改修	1	飲水庭こげにや	宿泊施設の外観、客室等の改修
	2	ホテルレッシュ鳥取駅前	
	3	鳥取グリーンホテルモーリス	
	4	ホテルニューオータニ鳥取	
	5	ホテルナショナル	
	6	温泉旅館丸茂	
	7	ホテルモナーク鳥取	
廃屋の撤去	8	(株)鳥取砂丘会館	旧砂丘フレンドの撤去・
観光施設の改修	9	日セウ興産(株)	桜寛苑/主屋・土蔵等の改修
実証実験	10	鳥取市	桜寛苑/観光案内機能・CAFÉ 実証実験



宿泊施設の高付加価値化改修
(ホテルモナーク鳥取)



廃屋の撤去 (旧砂丘フレンド)



観光施設の改修・実証実験 (桜寛苑)

よみがえれ！鳥取城！

(教育委員会事務局文化財課)

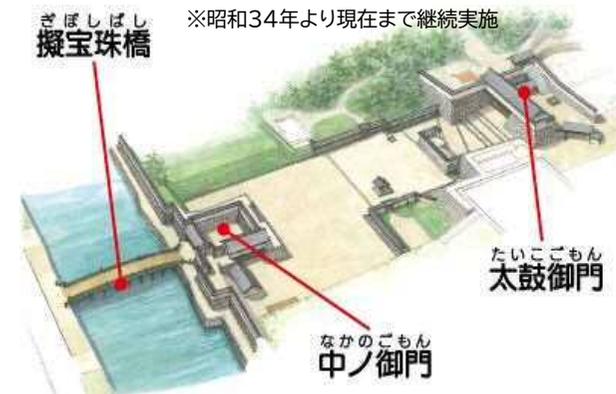
戦国時代からの石垣を遺す「城郭の博物館」を 後世に歴史を伝える鳥取市のランドマークに

鳥取市は、国史跡である鳥取城跡の保存・活用に取り組んでおり、**天守閣にあたる三階櫓の復元を長期目標として、建造物の復元を進めています。**

日本屈指の山城として全国的に評価が高まっている鳥取城を皆さんと一緒に復元することで、本市の歴史・文化を体感し後世に伝える、鳥取市のシンボルにしていきたいと考えています。

鳥取城跡保存修理事業とは

- ・文化財の保存活用のための長期事業※
- ・現在は正面玄関である大手登城路を復元中
- ・擬宝珠橋・大手門は竣工、R5年度は中ノ御門渡櫓の建設に着手(R7年3月完成予定)
- ・二ノ丸三階櫓等の復元は長期目標



大手登城路の復元イメージ

(1) 計画と経緯

昭和34年度から石垣の修理に取り掛かり、現在まで継続して保存修理中

昭和59年度 史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存管理計画策定

⇒現在に至るまでこれを基に史跡の管理

平成17年度 史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備基本計画策定

⇒第1期から第3期（平成18年度から令和17年度まで）の長期計画

現在短期計画の整備中

当初 平成18年度着手 ⇒ 現状 平成27年本格着手（約9年後ろ倒し）

(2) これまでの成果

平成30年度 擬宝珠橋完成



令和7年3月 中ノ御門渡櫓完成予定

令和2年度 中ノ御門表門完成



(3) 現状と課題

- ① 事業の進捗に伴い、商工会議所を始め市民の二ノ丸三階櫓復元への機運が高まってきた
- ② これまで文化庁の補助金を財源として事業を進めてきたが、シーリングの影響で工程が順延しているため、文科省以外を活用するなどの対応が必要な状況
- ③ 大手登城路の復元整備や調査研究などによって、鳥取城跡についての研究が飛躍的にすすみ、二ノ丸三階櫓についても相応の根拠をもって復元案を示すことができるようになった
- ④ 文化財の理解のための復元に関する国の基準が見直され、学術的な調査研究を尽くすことを前提に、想定復元を含む建造物復元が認容されるようになった
- ⑤ 整備後の管理活用について、市の活性化のために効果的な体制を整える時期に入ってきた（久松公園、久松山、史跡、住宅、周辺エリア）

(4) 今後の計画

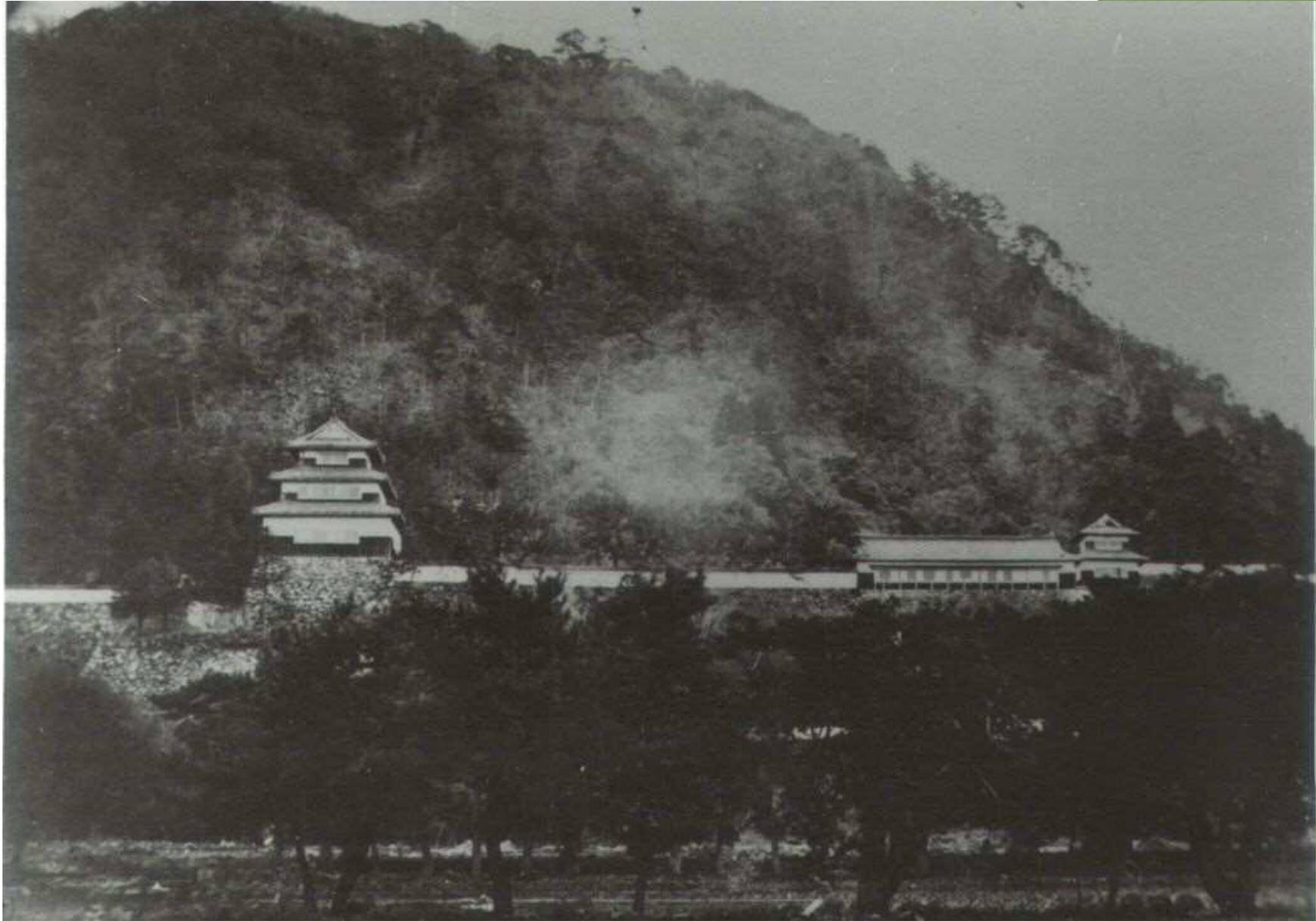
平成17年度 史跡鳥取城跡附太閤ヶ平保存整備基本計画策定
⇒事業計画の見直しの時期

▶ 現在の見込

令和6年度 中ノ御門渡櫓門完成(7年遅れ)
令和6年度～ 仁風閣の修理工事・石垣修理工事
令和10年度～ 仁風閣再開館
令和13年度 太鼓御門の完成
(短期整備の終了)
令和14年度 整備計画の見直し
(中期整備の着手)
令和18年度 三階櫓復元整備事業の着手

▶ ニノ丸整備を優先する工程検討

令和6年度末 中ノ御門渡櫓門完成
(短期整備の終了)
令和7年度～10年度 仁風閣修理・石垣修理
整備計画の見直し
※事業計画の見直しの中で、ニノ丸三階櫓復元整備
を早めることができないか検討
(中期整備の着手)



1 はじめに

作成の目的

本市は、因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏（麒麟のまち圏域）の中心市として、経済や観光、交流、防災面において、重要な役割を担っています。

その中で、鳥取駅周辺地区は、商業施設や公共施設、民藝などの歴史・文化的な資源が集積する場所であり、さらに、中心施設である鳥取駅は、交通の結節点として、住民生活を支える重要な場所となっています。

全国的に人口減少、少子高齢化が進み、本市においても様々な課題を抱える中、若者が暮らし続ける持続可能なまちづくりを進めるためには、山陰東部圏域のエントランスである鳥取駅周辺を再生し、中心市街地に賑わいを取り戻すことで、地域への誇りや愛着（シビックプライド）を醸成することが必要です。

鳥取駅周辺再生基本計画は、市民がワクワクする鳥取駅周辺に再生することで、鳥取駅を舞台にヒト・モノ・コトが集積し、交流の輪が人材を育成し続けるまちづくりの好循環を生み出すための基本的な方向性を示すものです。

本計画は鳥取駅周辺再整備のロードマップで「構想段階」にあり、今後、市民の皆様や民間事業者、関係機関など、多様な主体と連携し、本計画を実現していくための「鳥取駅周辺再生整備計画」の策定を目指してまいります。

計画の対象範囲

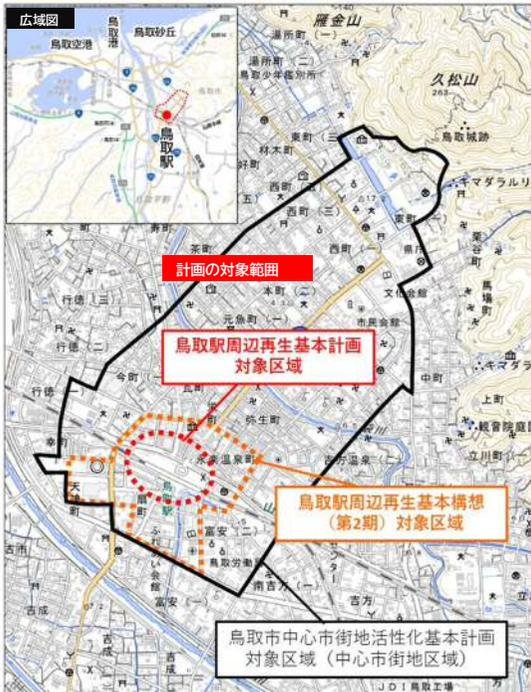


図 計画の対象範囲 出典 地理院地図ほか

2 鳥取駅周辺の現状と課題

麒麟のまち圏域・鳥取駅周辺の現状

上位・関連計画のまちづくりの方向性

■麒麟のまち圏域の課題

- 今後も人口減少、少子高齢化の進行が見込まれる中、誰もが安全で安心して快適に暮らし続けられるまちづくり
- 麒麟のまち圏域の中心市として経済・観光・交流・防災の拠点機能の対応
- 生活に必要な“移動”を守るため、地域公共交通サービスの維持や交通弱者への対応

■鳥取駅周辺の課題

- 南北方向の道路交通はアクセスできる箇所が限られていることや、バス交通が駅北側へ集中することが要因となり、渋滞が慢性的に発生し、改善が必要
- 駅周辺の道路網は災害時の機能強化の観点からも、今後、しっかりと分析・評価した上で、駅周辺道路網を適切に機能強化していくことが求められる
- 様々な世代、特に若者や子育て世代が楽しめる賑わいを創出させるための機能や若者がゆっくりと過ごし、集える場としての機能が求められている
- 観光や文化等の情報提供・発信機能の充実
- 誰もが安全・安心に移動できる円滑かつ利便性の高い利用者動線の形成
- 自動運転技術の進展やMaaSの普及に対応した新モビリティの拠点の整備
- 近年、多発する災害に備え、一時避難場所や帰宅困難者の受入環境などの災害支援の活動拠点等としての機能の充実が必要
- 駅での賑わいが駅前商店街や中心市街地へ広く浸透していくための回遊性機能の向上や、そのための仕組み・取組が求められている
- 鳥取駅周辺都市改造事業から約半世紀が経過するなかで、時代に沿った交通施設等の機能の再構築が求められている

3 鳥取駅周辺の再生に向けたビジョン

基本理念

人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取OACIS』の創造

趣旨

駅周辺地区では、広域交通の起点(Origin)として魅力的(Attractive)で人々が集い、交流(Communication)が進み、また新時代に対応した各種情報(Information)がますます集積する、持続可能(Sustainable)なまちづくりを目指します。

目指す将来像

次の50年へ。未来創造ステーション

—ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ—

再生の基本コンセプト

麒麟のまち圏域の新たなランドマークとなる、個性豊かなまちづくりの拠点に

特に若者、子育て世代が集い、楽しみ、交流できる、カジュアルでおしゃれな空間に

居心地が良く歩きたくなる空間に(ウォークアブル推進都市の実現)

通常時は賑わいを創出し、災害時は防災機能を発揮できる拠点に

再生の重要な視点

災害に強いまちづくりの拠点

先端技術の導入(スマートシティ)

市民や民間と共創した持続可能な体制の構築

課題解決の方向性

モーダルコネクトの強化

魅力的な賑わい創出の拠点づくり

鳥取駅周辺の回遊性・滞留性の向上

産・官・学・金の連携による事業推進

防災機能の充実

ユニバーサルデザインの対応

4 取組の方向性

<課題解決の方向性>

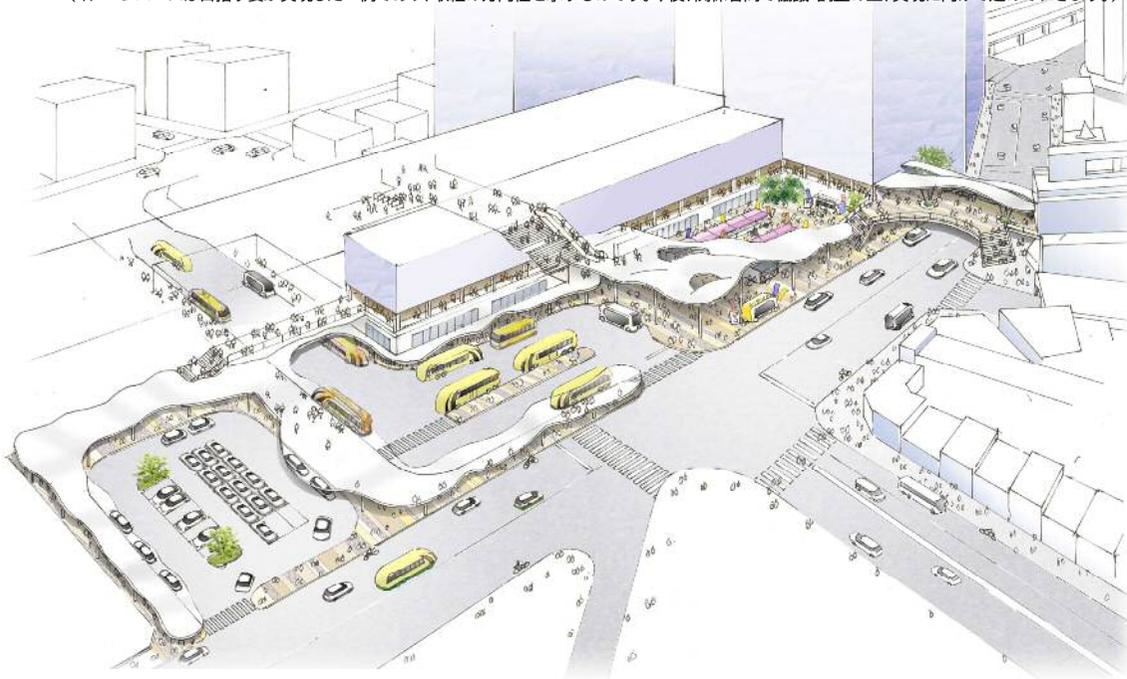
- モーダルコネクットの強化
- 魅力的な賑わい創出の拠点づくり
- 鳥取駅周辺の回遊性・滞留性の向上
- 産・官・学・金の連携による事業推進
- 防災機能の充実
- ユニバーサルデザインの対応

<基本方針>

基本方針	求められる役割
①集約型交通ターミナル機能の再編 <ul style="list-style-type: none"> 鉄道、バス、タクシー、自家用車、レンタカー、自転車などの多様な交通モード間をシームレスに乗り換えができる集約型交通ターミナルへ再編します。 災害、豪雪への対応や、将来的には新モビリティへの対応も可能な交通結節点を整備します。 	○交通結節機能の強化 ○乗換のシームレス化 ○公共交通の利用促進 ○災害時の防災力強化 ○豪雪時のターミナル機能の維持 ○周辺道路ネットワークの円滑化
②まちなかへ賑わいを滲み出す空間整備 <ul style="list-style-type: none"> 若者や子育て世代が、過ごしやすく、回遊しやすい人中心の滞留空間の強化に向けて、賑わい広場や歩行者デッキなどの空間を整備します。 子供からお年寄りまで、市民が安心して回遊できる歩行者ネットワークを確保します。 地域の活動拠点や多様な人々の交流機会を創出する場として、商店街などのまちなかとの連携に配慮した空間を整備します。 	○回遊、滞留機能の強化 ○若者や子育て世代の憩いの空間 ○多様な人々の交流機会創出 ○市街地との賑わい連携 ○祭りやイベント等の地域の活動拠点
③市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> JRやバス利用者などの公共交通利用者が快適に過ごせる待合環境の利便性向上や市民が日常的に駅に集うライフスタイルの創出を目指し、文化施設などの公共公益施設の整備を検討します。 	○文化機能の充実 ○コンベンション機能の確保 ○まちづくり等の活動の場 ○教育や人材育成などの創造の場 ○地域発の新たなビジネスの創造の場 ○情報発信の充実 ○観光振興の支援 ○福祉機能の確保
④民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> 既存施設や商店街などとの連携にも配慮しつつ、魅力ある商業機能、宿泊や住居機能、業務やイノベーション機能を備えた民間施設整備の誘導など、複合施設の整備を図ります。 民間投資を誘導するためには、民間の有するノウハウや資金力を最大限に活かしたPPPなどの整備手法の活用を検討します。 	○商業(収益)機能の確保 ○来街意欲の喚起や来街促進 ○宿泊や住居機能による拠点性強化 ○集客性の向上 ○まちなかへの経済波及、循環 ○駐車場等の収益機能の確保

▼鳥取駅周辺再整備のイメージパース

(イメージパースは目指す姿が実現した一例であり、取組の方向性を示すものです。今後、関係者間で協議・調整の上、実現に向けて進めていきます。)

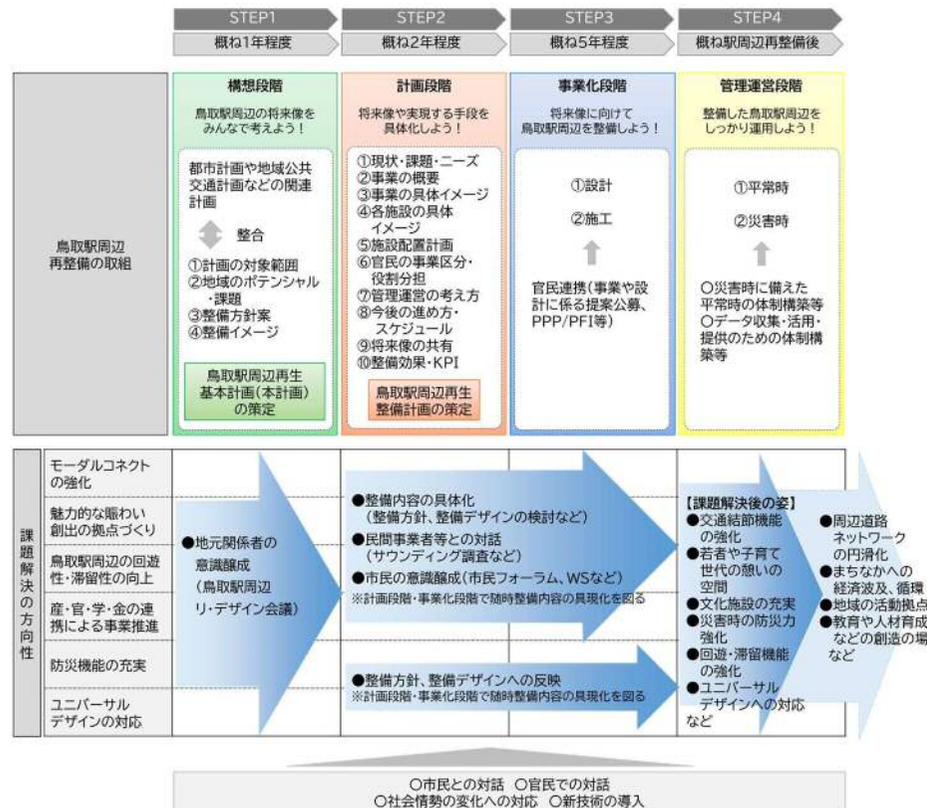


<具体的な施策のイメージ(抜粋)>



5 今後のスケジュール

本計画は鳥取駅周辺の再生に向けて、再整備の方向性や目指す将来像を示しているものです。今後、本計画の実現のために、実態調査の実施や詳細イメージ・整備手法の検討などを行い、鳥取駅周辺再生整備計画をとりまとめていくこととします。

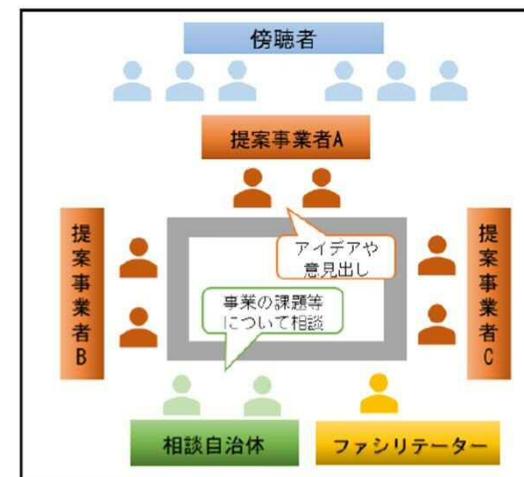


※今後策定する整備計画や整備手法に応じて、整備の内容・時期、それに伴う事業効果の発現時期などが変わってきます。引き続き、社会情勢等にも留意しながら、市民、事業関係者の意見を踏まえ、再整備を進めていきます。

1 サウンディング型市場調査の実施

鳥取駅周辺再整備は、民間活力やノウハウを導入した事業実施を目指しており、民間事業者に対して本事業への参画意欲や、施設の機能・業務の意向を把握するためのサウンディング型市場調査を実施します。

- (1) 実施日時：令和6年8月2日（金）15：10開始
- (2) 実施方法：対面形式（オープン型）
- (3) 会場：鳥取市民交流センター（麒麟Square）2階多目的室2・3
※当日は、13：00～14：50まで、鳥取県PPP/PFI推進地域プラットフォームセミナーを開催します。
会場：市役所本庁舎6階第5～7会議室
内容：内閣府、有識者によるPPPに関する講演及び県内での事業説明など



オープン型実施イメージ

2 若者や子育て世代を対象にしたワークショップの実施

鳥取の未来を担う若者の意見やアイデアを駅周辺再整備に反映していくため、学生や若手社会人、子育て世代を対象にしたワークショップを実施します。若者が「どのようなライフスタイルを送りたいのか」という切り口から課題を抽出し、その解決に資する鳥取駅周辺に必要な施設・機能を検討していきます。

- (1) 実施期間：令和6年7月～12月
- (2) 実施内容：
 - ① ワークショップの開催（公開）
 - ・学生～若手社会人、子育て世代の2グループ体制（1グループ20名程度）で実施
 - ・第1回：9月 第2回：11月（下記調査実施後に開催）
 - ・報告会：12月頃
 - ② アンケート調査及びヒアリング調査の実施
 - ・ワークショップでの意見や結果を踏まえ、若者等を対象にしたアンケート調査及び、鳥取駅やケヤキ広場、バスターミナルなど、駅周辺の施設等を利用している若者や子育て世代を対象にヒアリング調査を実施：10月実施予定



ワークショップのイメージ

～「出会い」「集い」「学び」「つながる」舞台芸術を核とした地域活性化事業～
デジタル田園都市国家構想交付金活用の取組

事業の概要

鳥の劇場、鳥取市、鳥取県、地域の4者が連携し、令和5年度から新たな地域活性化の取組を展開しています。

具体的には、国のデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用し、ハード事業として「鳥の劇場」関連施設をリニューアルするとともに、舞台芸術と教育、農業、観光などの分野を組み合わせたソフト事業を展開することで、文化芸術振興、交流促進、産業振興、人材育成などにつなげることをねらいとしています。

I 舞台芸術を核とした交流の拠点づくり（ハード整備）

方式	事業名	事業概要
補助	文化交流拠点施設整備事業	地域内外の多様な人々の活動や交流の拠点となる施設の整備に対する支援を実施する。 「実施主体：鳥の劇場」 【R5】 小学校舎解体①・幼稚園舎改修 【R6】 バックヤード等新築 【R7】 小学校舎解体②
直営	文化交流拠点周辺環境整備事業(広場等)	地域内外の多様な人々の活動や交流の拠点となる施設の整備に合わせ、周辺環境の整備を実施する。 「実施主体：鳥取市」 【R6】 設計 【R7】 工事



R7年度末 鳥観パース

～「出会い」「集い」「学び」「つながる」舞台芸術を核とした地域活性化事業～
デジタル田園都市国家構想交付金活用の取組

Ⅱ 舞台芸術を核とした人づくり (ソフト事業)

方式	事業名	事業概要	R5実績
委託	①演劇塾開催事業 	日本の演劇文化の将来を担う優れた人材の発掘・育成を図るため、演劇の要素である演技、道具、音楽、脚本、映像制作などに関して学べる演劇塾を開催する。	〔実施内容〕 戯曲理解を踏まえた演技と演出について理解を深めた。 〔参加人数〕 4人（俳優3人、演出家1人）
	②市民演劇講座開催事業 	学習意欲のある地域住民に地域の特色を生かした学びの機会の提供を図るため、演劇の要素である演技、脚本、映像の制作などに関して学べる講座を開催する。	〔実施内容〕 リーディングによる小作品の創作・上演を実施した。 〔参加人数〕 2地区公民館 (参加者9人、鑑賞者32人)
	③劇場空間体験事業 	地域社会の将来を担う人材の育成を図るため、市内の小中学生を対象に演劇鑑賞やワークショップなどの舞台芸術体験プログラムを実施する。	〔実施内容〕 上演「がまくんとかえるくん」鑑賞とワークショップを実施した。 〔参加人数〕 7校、参加者325人
	④企業研修トライアル事業 	演劇手法を活用し企業の人材育成を図る試行的な取組を実施する。	〔実施内容〕 演劇の手法を取り入れたコミュニケーション能力向上のための研修を実施した。 〔参加人数〕 4社、参加者24人

～「出会い」「集い」「学び」「つながる」舞台芸術を核とした地域活性化事業～
デジタル田園都市国家構想交付金活用の取組

Ⅲ 舞台芸術を核とした賑わいづくり（ソフト事業）①

方式	事業名	事業概要	R5実績
委託補助	<p>演劇×マルシェ開催事業</p> 	<p>地元農産品の流通拡大を図るため、鳥の劇場における定期的なマルシェ開催や地元産農産品を生かした新商品の開発を実施する。</p>	<p>〔実施内容〕 「鳥の農場マルシェ開催」 ・季節の旬の野菜・果実等の販売 16日開催、来店345人 売上235千円 「鳥の農場商品開発・販促」 ・地域の飲食店とコラボし、鳥劇井やそば粉を使用したガレットを開発 ・大阪公立大学と連携し、学園祭で鳥の劇場開発メニューを販売</p>
委託補助	<p>文化芸術観光創造事業</p> 	<p>関係・交流人口の増加を図るため、演劇、農業、食、温泉など、地域資源を組み合わせた体験観光商品の造成に対する支援を実施する。</p>	<p>〔実施内容〕 「教育旅行誘致事業」 ・鳥の劇場の文化芸術体験や麒麟のまち圏域を周遊する観光商品の開発 2泊3日のモニターツアー 参加者 旅行関係者8人 「ONSENガストロノミーwith鳥の劇場」 ・鹿野温泉と鳥の劇場をめぐるガストロノミーツアーの実施 参加者123人</p>

～「出会い」「集い」「学び」「つながる」舞台芸術を核とした地域活性化事業～
デジタル田園都市国家構想交付金活用の取組

Ⅲ 舞台芸術を核とした賑わいづくり（ソフト事業）②

方式	事業名	事業概要	R5実績
補助	文化芸術推進事業（鳥の演劇祭開催支援事業）	市民の文化芸術活動の促進や文化芸術に対する意識の高揚を図るため、鳥の劇場及び周辺を会場とする「鳥の演劇祭」の開催に対する支援を実施する。	<p>〔実施内容〕 「鳥の演劇祭16開催支援」 ・鑑賞事業「どろぼがっこう」の開催 9/18（日）上演</p> <p>〔参加人数〕 263人（演劇祭16全体3,000人）</p>
補助	鳥と鹿のミュージカル育成事業	地域住民の文化芸術に対する意識の高揚と他世代間の交流促進を図るため、地域住民の手づくりによるミュージカルの上演に対する支援を実施する。	<p>〔実施内容〕 「鹿野ふるさとミュージカル開催」 ・「音楽劇さくら姫物語」制作・上演 ・鳥の劇場俳優による総合演技指導 R6.2/25（日）上演</p> <p>〔参加人数〕 707人</p>
補助	じげのまつべるイベント開催事業（わったいな祭） 	地域内外からの集客による賑わい創出と交流人口の増加を図るため、地域住民との共催によるイベント開催、特産品販売、文化団体の作品展示などを実施する。	<p>〔実施内容〕 「鹿野町わったいな祭事業」 ・城下街なみ魅力PR（まちみせ開催） ・農産物・特産物販促事業 ・芸能発表、作品展示 ・とりカフェ開催</p> <p>〔参加人数〕 6,646人</p>

取組の成果

舞台芸術を核とした人づくり

- ・鳥の劇場の「演劇」を活用した人材育成事業については、幅広い世代において、自身を見つめなおし、他人の意見を聞くことでコミュニケーションスキルを身に着けるアイテムとして「演劇の要素」に対する認知度が向上した。
- ・次世代育成や企業人材の育成の取組に「演劇」を取り入れる学校や企業が増えた。



舞台芸術を核とした賑わいづくり

- ・鳥の劇場と、農業・観光など様々な産業とのコラボで生まれる新商品やツアー企画など、文化芸術と掛け合わせることで新たな人的交流と地域の賑わいが創出された。



今後の取組

「鳥の劇場」の舞台芸術を核とした地域活性化の取組を推進するうえで、人材育成、交流促進、産業振興などの取組を一体的に推進する必要があることを踏まえ、交流拠点整備に対する支援と地域の人材育成、賑わい創出事業に取り組む。